



## 生き生きとした 都市を支えるもの

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝つねたか



呉服町通り(静岡市葵区)



少し前の事になりますが、久しぶりで日本海に面した美しい城下町を訪れる機会がありました。震災を免れ、古い町並みが残っているその町で飲む美味しいお酒を楽しむにしてみたのですが、昔からの花街の露地もすっかり寂れて、暗く人影もまばらでとても寂しい街になっていました。

その町のお殿様だった友人の案内で、漸く気持ちの良い飲み屋に辿りついて、元芸者さんだった女将の御酌で楽しい夜を過ごしたのですが、色々とその町の事を伺いました。

殿様の説明によりますと、その美しい町が急に寂れて来たのは、県庁が新空港の近くに移転したとと、旧城内にあったその地方最大の大学が、街からずっと離れた新しいキャンパスに移転したことが

大きな要因だったようです。「若い人達が居なくなると町は寂しくなりますね。」と女将も寂しそうです。

仕事で各地を訪れて強く感じることは、いま日本に一番必要なのは、新しい視点と発想で地方の中核都市をもう一度明るく、元気なものに戻すことと、それを実現するには急速に進んでいる人口の減少と高齢化という、世界で日本が最初に直面している大きな問題を真剣に考えることが必要だということです。

四〇年前、私達がアメリカの田舎町に住んだ頃は、郊外の大規模高級ショッピングモールが大繁盛でしたが、数年前に訪れてみますとそれらは殆ど姿を消して、一方、駅前個人商店や

レストランの街並は相変わらず多くの人々が行きかかって昔の儘でした。自動車の国アメリカでも御老人達は公共交通の便の良い方を選んでる為と思います。

いま東京でも、二・三十年前に遙か郊外に主要なキャンパスを移した有名な大学が、揃って明治時代からの都心の旧校舎に戻って来ていますが、要すれば電車で一時間も掛かる所では有名校でも学生が集まらない為です。

時代と共に社会もどんどん変わって行きますから、新しい町作りにも色々な工夫が必要だと思いますが、矢張り若者達が元気に参加してくれることがとても大事なことだと思います。

次号はヨーロッパの街々で感じたことを御紹介したいと思います。